

環境や社会のためになる 活動・事業モデルを促進します

SDGsの考え方を大切に、これまですすめてきた
環境活動や社会貢献を組合員、地域と共に更に
発展させ、ますます参加の輪が広がる「まち くらし」

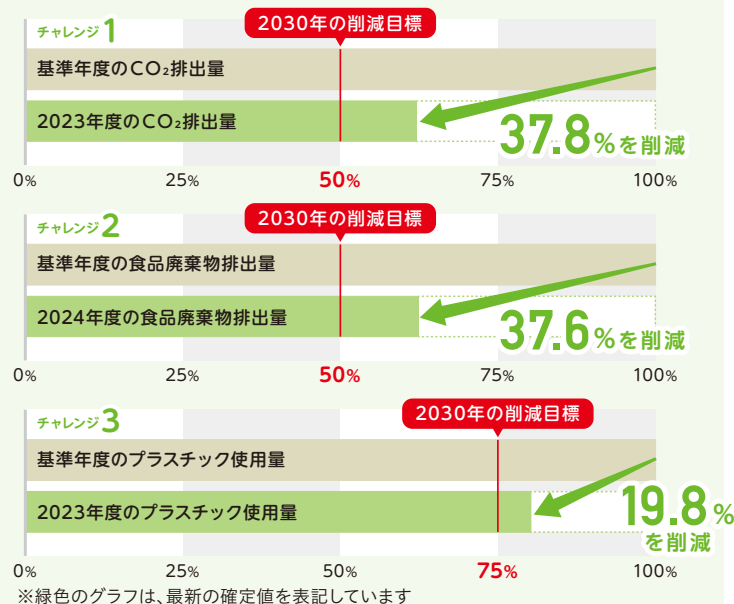


現在の到達点

環境チャレンジ目標 エコチャレ2030

2030年に向けた環境チャレンジ目標を2018年度に策定し、取り組みを推進しています。

- チャレンジ1 事業活動におけるCO₂排出量を半減！
2050年度には、排出量実質ゼロをめざす！
- チャレンジ2 事業活動における食品廃棄物を半減！
- チャレンジ3 事業活動におけるプラスチック使用量を25%削減！
- チャレンジ4 環境に配慮したエシカルな商品やサービスの開発・供給推進！
- チャレンジ5 組合員とともにエシカル消費を拡大！



誰もが働きやすい 職場づくりをすすめています

店舗や協同購入センターで約180人の障がいのある職員が活躍しています。7月から多様な職員が働いていることを伝えるポスター「ともににはたらく」を店舗などに掲示して組合員の皆さんにもお知らせし、多様な職員の活躍と働きやすさを支援しています。



障がいのある皆さんが店舗や協同購入センターで活躍しています



防災をテーマに フォーラムを開催しました

阪神・淡路大震災から30年の節目を前にした9月、地域のつながりを起点に防災を考える「地域つながるフォーラム2024」を開催。防災に関するクイズやワークショップ、防災食の試食・販売、災害・避難体験などさまざまなブースが出演。

また、地域の防災活動に取り組む専門家・活動団体が講演・事例報告を行い、167人が参加しました。参加者から「防災を多角的に見直して、自分の活動に生かすヒントが見つかった」などの感想が寄せられました。



ポリ袋を利用した防災カレーづくり

紙を通した資源循環を学ぶ機器を 設置しました

SDGsを学ぶ拠点として開設した玉津のつどい場「たまるつと」に、紙リサイクル機器「玉津ラボ」(愛称)を設置しました。使用済みの紙から、新しい紙をその場で作り出す小さな製紙工場のような機器で、環境学習のツールとしても活用。また、リサイクルの工程に、阪神友愛食品(株)や地域の福祉作業所が関わることで、障がい者雇用を促進しています。今後は、地域で使用された紙資源の再生・活用もめざしていきます。



「玉津ラボ」の前で使用済みの紙を整理する福祉作業所の皆さん

「コープこうべ環境基金」の 助成を受けた活動が受賞

生物多様性の保全、希少種・在来種復元、再生可能エネルギー普及などに関する活動を行う39団体に、「コープこうべ環境基金」から総額1000万円を助成しました。

助成を受けた兵庫県立明石北高等学校 科学探究部生物班は、11月の「兵庫県高等学校総合文化祭(自然科学部門生物分野)」で「ネビキグサ(明石市の絶滅危惧種・レッドリストAランク)」の研究を発表し、最優秀賞(第1位)を受賞。これをきっかけに学校関係の団体から助成金申請が増加しました。



最優秀賞を受賞した
明石北高等学校科学探究部生物班の生徒の皆さんと先生

CO₂排出量削減の 取り組みをすすめています

兵庫県の脱炭素アクション「ひょうご1.5℃ライフスタイルコンソーシアム」に参画しました。その企画の一つとして、10月から個人の脱炭素行動変容を促進する取り組み「脱炭素エキデンひょうご」に参加。参加者のマイボトルの使用やフードドライブの取り組みなどによるCO₂削減量を専用アプリ「SPOBY」で“見える化”し、意識・行動変容を促しています。参加した組合員・職員57人の脱炭素行動により、10月～3月の6カ月で「199.9kg」のCO₂削減に貢献しました(約23本分のスギの二酸化炭素吸収量に相当)。



日々の脱炭素量を計測できるエコライフアプリ「SPOBY」

1 お買い物を通じたくらしの
安心づくりをすすめます

2 つながりづくりをすすめます
地域の

3 環境や社会のためになる活動・
事業モデルを促進します

食品廃棄物削減の取り組みを広げています

店舗から出る食品残さのリサイクルは、^{たいひ}堆肥化業務を外部に委託し、新たに日配商品の廃棄品の回収を開始。年間約700tの食品残さなどを回収し、リサイクルしました。また、新たな取り組みとして、「消滅型生ごみ処理機」をコープデイズ豊岡、コープデイズ相生、コープ姫路田寺、コープ龍野に導入。該当の店舗から出る約8割の生ごみを処理し、更なる食品廃棄物の削減につなげています。



店舗から出る食品廃棄物の回収をする様子

就労支援の場を提供しています

障がい者支援団体と連携し、「めーむひろば」の仕組みを活用した就労体験を8カ所で開催。働くきっかけの場を提供しています。コープ龍野では、就労体験をした方がコープこうべに就職しました。障がいの有無にかかわらず誰もが活躍でき、お互いを認め合う優しさがある社会になるよう取り組んでいます。



コープ龍野の職員

「ひょうご地魚推進プロジェクト(とれびち)」をすすめています

2013年から兵庫県漁業協同組合連合会、兵庫県と共に取り組んできた「ひょうご地魚推進プロジェクト(とれびち)」。10年の節目に「とれびちフェスタ」を明石浦漁業協同組合で開催し、子育て世代を中心に1200人が参加。「兵庫の海」や、漁業について学ぶ機会となりました。今後も地元の魚の食文化継承や豊かな海づくりをめざし、店頭での普及活動、産地見学や学習会などをすすめていきます。



「めーむひろば」の受け渡しをする福祉作業所の皆さん
(コープ姫路田寺)



遊びながら海の資源について学ぶ子どもたち

「みんなの牧♥里プロジェクト」は10周年を迎えます

大阪府豊能町牧地区では、地元の農家、大阪府、豊能町、コープこうべの4者が協働して放置された農地・竹林を再生する「みんなの牧♥里プロジェクト」を実施中。里山の保全活動や農業体験を通じ、地域の活性化をすすめています。

プロジェクトの10周年記念イベントに200人が参加しました。

これからも自然の恵みを感じながら農業やくらしについての学びを深めていきます。



「みんなの牧♥里プロジェクト」が始まった2015年12月のキックオフイベントに参加した皆さん

被災地の応援を続けています

6月、能登半島地震の緊急募金の一部を活用し、兵庫県社会福祉協議会ひょうごボランティアプラザと協働で、災害ボランティアバスを運行。組合員・職員ら延べ47人が被災地で支援を行いました。また、9月に発生した能登半島豪雨災害の緊急募金を10月～12月に実施。寄せられた約416万円の募金を活用し、コープ商品の野菜スープと味のりを応援メッセージと併せて、コープいしかわの組合員に届けました。



コープいしかわに届けた商品とメッセージ



被災地支援を行う組合員・職員

生協の理念継承に取り組んでいます

地域や組合員とつながり、生協らしさを感じた協同の体験を、職員同士で共有する取り組みを実施。2024年度のテーマは、「震災体験と備えるを語り継ぐ」。岩山利久組合長理事から地区本部長への発信に始まり、地区本部長から所属長へ、所属長から各所属の職員へと語り継ぎを実施。30年前の震災に思いをはせ、生協の理念やこれからの「備え」について考える機会となりました。



阪神・淡路大震災の経験から今後の「備える」について考える職員

組合員とコープこうべの「ええやん」を広めています

コープ商品の良さを、より多くの方に知ってもらおうと、SNSを活用した広報を強化しています。12月にアンバサダーを募り10人の組合員が就任。約半年間、コープ商品のおすすめポイントやレシピを組合員自身のInstagramで投稿していただきました。投稿をきっかけに「商品を試してみた」や「宅配を始めた」という声も届き、第2期アンバサダーの募集も検討しています。



組合員アンバサダーの皆さんがInstagramに投稿した画像「#コープこうべアンバサダー」

デジタルツールの活用をすすめています

コープこうべアプリの利便性を伝えるとともに、アプリを通じたコミュニケーションを広げています。店舗では、アプリ登録の相談会を開催し、デジタルの活用をすすめています。



店内でコープこうべアプリの説明を受ける組合員

1 お買い物を通じたくらしの安心づくりをすすめます

2 つながりづくりをすすめます、地域のいきいきとしたくらしを

3 環境や社会のためになる活動・事業モデルを促進します